

令和3年第1回北海道議会定例会 冒頭先議 開催状況 (環境生活部)

開催年月日 令和3年2月25日(木)

質問者 日本共産党 菊地 葉子 議員

答弁者 知事 鈴木 直道

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>四 東京五輪大会ホストタウン等における新型コロナウイルス感染症対策基金について</b></p> <p><b>(一) 五輪開催に伴う必要な感染対策について</b></p> <p>道内ホストタウンや事前キャンプを受け入れる市町村及び道が実施する感染症対策に活用するための予算案が提案されています。</p> <p>知事はこれまで「開催には徹底した感染対策が必要」と繰り返してきましたが、海外選手を受け入れる市町村において、具体的にどれだけの規模の感染対策が必要と認識しているのか伺います。</p> <p><b>(二) 保健師の体制確保について</b></p> <p>基金事業には、保健所の人件費が計上されています。保健所業務が今でもひっ迫する中、さらなる負担の拡大には賛成できません。正規職員としての保健師を十分に確保することが大前提と考えますが、保健師をどう確保しようとしているのか伺います。</p> <p><b>(三) 五輪開催の根拠について</b></p> <p>朝日新聞世論調査によると、「今夏に開催」は11%にとどまり、35%は中止すべきと答えています。知事は、このような国民世論の中、今夏に五輪開催が出来るか考える根拠は何か伺います。</p> <p>少なくとも五輪開催ありきではなく、立ち止まってゼロベースから開催の是非について再検討すべきではありませんか。如何ですか。</p>	<p><b>(知事)</b></p> <p>ホストタウン等における感染症対策についてであります。海外から選手等を受入れる市町村においては、現在、国が示した手引きをもとに、選手等に対する検査の実施や移動・宿泊・交流などにおける感染防止策、感染の疑いがある方が発生した場合の保健・医療対応などを定めた受入れマニュアルの作成を進めているところであります。</p> <p>道としては、そのマニュアルに基づく取組に向けて、地域の保健・医療機関と市町村の皆様との連携体制を整えていくとともに、国からの交付金を財源とした基金を設置し、市町村を財政面から支援することにより、全ての受入れ市町村で、選手と地域住民の双方にとって安全・安心な環境で迎え入れられるよう、感染対策に万全を期してまいります。</p> <p><b>(知事)</b></p> <p>保健師の確保についてであります。本定例会に提案しているホストタウン等のコロナ対策基金では、国から示された手引きなどを踏まえ、選手等の受け入れで、感染の疑いがある方が発生することに備え、選手等の滞在期間中において、保健師等を確保することになる場合も想定をしております。</p> <p>道としては、事業を主導してきた国とも連携して、感染症対策の準備が万全となるよう、市町村を支援するとともに、ホストタウン交流の状況を見極めながら、必要に応じて看護職の人材紹介機関と連携するなどして、保健・医療面での道の役割を果たしてまいります。</p> <p><b>(知事)</b></p> <p>東京オリンピックの開催についてであります。昨年12月に、東京大会における新型コロナウイルス感染症対策の中間整理を、国と大会組織委員会、東京都など関係者の方々が一体となって取りまとめたところであります。現在、I O Cや大会組織委員会では、この中間整理をもとに、国際的な競技大会での感染症対策の実施事例も踏まえ、アスリートや大会関係者の具体的な行動規則を示して議論を進めるなど、全ての方々の安全・安心を最優先とした準備が進められております。</p> <p>道としても、大会組織委員会や札幌市など関係機関の方々と連携し、感染症対策を徹底しながら、マラソン・競歩、サッカー競技の安全で確実な実施に向けて取り組み、大会の成功に貢献してまいります。</p>